

日本株の急落について

株価急落でバリュエーション面からの割安感強まる

2024年8月5日

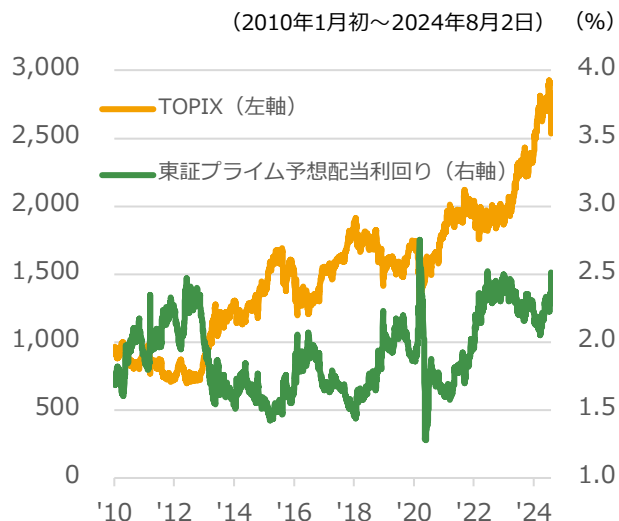
円高止まらずパニック的な売りに

7月31日の日銀金融政策決定会合後の植田総裁の会見が想定外にタカ派であったことを受け、円高が急速に進みました。その後は予想を下回る米国の経済統計の発表が相次ぎ、8月2日の米雇用統計が市場予想を大幅に下回り円高が進行。週明け5日にも円高進行が止まらずTOPIXは前日比▲12.2%と急落しました。ここ1カ月で20円程度円高・米ドル安が進行し、TOPIXは7月11日の高値から約24%下落しています。

円高は外需企業を中心に今後の予想EPS（1株当たり利益）の押し下げ要因となりますが、過度な円安進行の一服は輸入物価の上昇によるコスト増を抑制し、実質賃金の改善に寄与するため内需へのプラス効果が期待されます。米国経済も雇用統計の悪化はハリケーンなど一時的な要因の影響も大きく、今後は金利低下や資源価格下落が景気の底上げに寄与するため、景気の大幅な悪化は想定し難い状況です。

TOPIXの予想PER（株価収益率）は12倍程度と既に過去の下限レベルにあるほか、予想配当利回りもコロナショック時などと同水準まで高まっており、株価の割安感が強まっています。足元の株価急落は、日銀の長期間に亘る金融緩和で積み上がったポジションの巻き戻しによるパニック的な売りの色彩が強いです。引き続き、ハイペースの自社株買いや個人投資家の資金流入など良好な需給環境に変化はなく、市場の落ち着きとともに過度に悲観的な見方の修正が期待され、日本株の見直し余地は大きいと考えます。

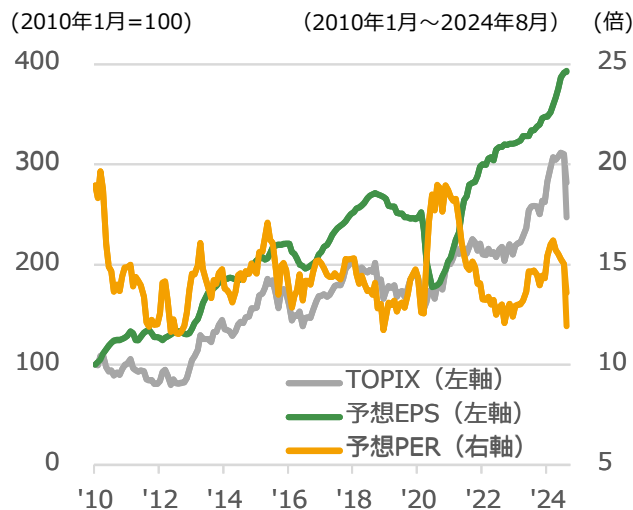
TOPIXと東証プライム市場予想配当利回り



※東証プライムの予想配当利回りは単純平均

(出所) QUICK

TOPIXと予想EPS・PER



※月末値、2024年8月は5日の値。予想PERは12カ月先予想

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management